



こくば

平成27年11月20日発行

第124号

発行責任者
渡慶次 明

自治会広報誌

発行/字国場自治会・有限会社コーポレーションこくば
那覇市国場95番地 TEL098-855-3165 FAX098-855-1811

「国場のシーサー」



瓦屋毛（カーラヤーモー）跡



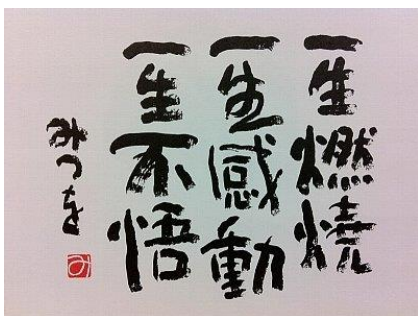
瓦屋頂登てい 真南向かてい見りば
島浦どう見ゆる 里やみらん
(瓦の丘に登って南を向かってみると
村の反対側だけが見えて貴方は見えない)
琉歌より

JA 運動会 11/15



目次

- ◇ 木会 グランドゴルフ大会
- ◇ 公道・公園・拝所清掃里親募集
- ◇ JA 運動会
- ◇ 国和の会 第五回カラオケ大会
- ◇ 南風原町 下原門中訪問
- ◇ 国場 瓦屋毛（カーラヤーモー）



● 自治会行事

12月13日(日)年末大掃除



南風原町兼城 下原(シモバラ)門中 訪問

すでに、一般社団法人を設立して運営されている南風原町兼城の下原門中を、勝俣京子（司法書士・税理士）さんの紹介で 11/14（土）に訪問して設立経緯をお伺いしました。



一般社団法人設立の理由は、土地建物の名義が不安定問題。法制化されてすぐに法人化に向けて2年間検討、平成 24 年に設立、営利的事業がないので非営利型とした。収入源は会費（一人年間2000円）約 60 所帯（約 300 人）の会費収入と地料に代わる寄付金の収入で法人が運営。役員が理事 12 名 理事長、副理事長、事務局長3名の執行理事としており、法人は地域自治会とは一切関係なく運営されていました。国場自治会も法律にもとずく安定した団体として、法人化を目指すべきだと考えています。



瓦製造の発祥地 国場カーラーモの由来

今でこそ、沖縄の瓦は「沖縄赤瓦」と呼ばれ赤色系と認知されているが、それは 18 世紀に入ってからのことで、かつては琉球地方の瓦は灰色のものが主流であった。まさに、その赤瓦以前の灰色瓦を沖縄で初めて作った発祥地が【国場】であったのだ！！

その歴史をたどってみると、唐時代西暦 618 年～906 年頃王府は、中国から瓦職人 唐大主（トゥスー）琉球名 渡嘉敷三良（トカシキサンラー）を呼び寄せ、今の真玉橋の北側、山の中腹に瓦製造の窯を作り、灰色の中国瓦を作り王府で使用した。瓦が本格的に焼造されるのは尚永王代（1573～88 年）に瓦奉行所が設置されている。壺屋で発見された赤瓦は1783年頃の作成であることから、今の赤瓦の原型であると考えられている。その後、唐大主は国場の一番古くて格式高い城間門中（グスクマムンチュウ）の養子となった。

子孫代々伝授して誇りにし、瓦製造の発祥地として行政に働きかけ「記念碑設立」をお願いしていきたいと思います。なお、当自治会では祖先崇拝の行事として毎年1月に御願解き（ウガンブトゥチ）の拝み時に瓦屋毛（カーラーヤーモー）を欠かすことなく礼拝しています。

私達が生まれ育った「国場」の歴史に残る偉業は

